

守ろう白根の自然とコマクサ

なぜコマクサの移植が必要だったか

戦後、コマクサは結核や肋膜炎の特効薬として珍重され、花の美しさよりも薬草として盗掘された。その後、結核の薬が研究されてからは山野草のブームで盗掘は続き、コマクサは絶滅の危機になった。

そして、コマクサの絶滅の危機を何とか防ごうとし、民間のボランティアで本白根山のコマクサ保護、復元を進める活動が始まった。中学生によるコマクサ復元活動は、当初、隣村の六合村に住む故山口雄平氏に苗を分けていただき、それを本白根山に移植する活動であった。その後、学校の敷地内にコマクサ専用の花壇を作り、校内での栽培も実施してきた。それからは、山口氏の苗と、校内の苗の両方を移植した。

地域の方々と連携したコマクサの移植・保護活動の歴史

本校の1年生は昭和56年から学年行事としてコマクサの保護・復元に参加するようになった。それから、関係町村による官民挙げての支援となるよう「本白根山のコマクサ保護、復元を進める会」が昭和61年に設立された。この会には、各種団体が参加し、コマクサの復元・保護活動の日取りや活動方法・内容を検討し、活動を実施している。そして、およそ20年間の活動の成果で本白根山のコマクサの復元がほぼ完了した。そのため、平成8年から組織を「本白根山系の高山植物を護る会」とし、新たにスタートして現在に至っている。したがって、現在の活動は、復元よりも保護が中心の活動となっている。草津中学校の長年の功績が評価され、平成15年には環境省から地域環境美化功労者の表彰、平成18年には緑化推進功労者内閣総理大臣表彰を受けた。

自然環境を考える総合学習として活動

生徒はほとんど草津町で生まれ育っているが、本白根山のコマクサを小学生までに見に行ったことがある生徒は、ほんの数名であった。生徒たちは中学校に入るとコマクサ保護活動があることは知っているが、その意義は知らない。そこで、現在では、このコマクサ保護活動を総合学習に位置づけ、生徒は、この学習からコマクサの歴史やこれまでの移植と保護の取り組みを知り、自分たちも実際に保護活動に取り組む。また、この保護活動に関連した草津町の環境に関する調べ学習も並行して行い、環境の意識を高めている。



【コマクサ植えの様子】

